令和4年度　栄養学・薬学・医学・歯学・看護学・リハビリテーション学グループ
アクティブ・ラーニング対話集会

令和5年1月21日

各専門領域を超えた分野横断型遠隔授業の実践

－WITHコロナ禍時代の持続可能な医療・健康生活を考える－

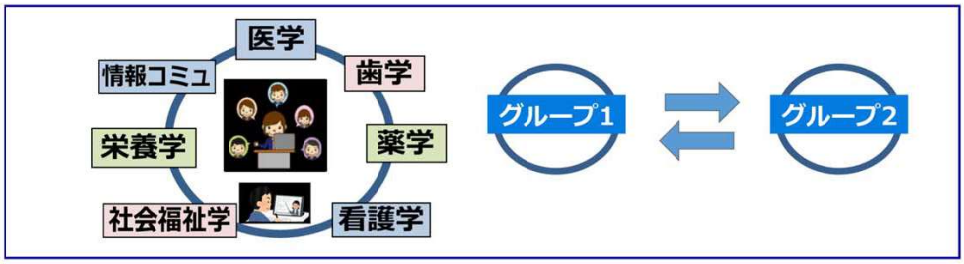
昭和大学　統括教育推進室　歯学部歯学教育学講座

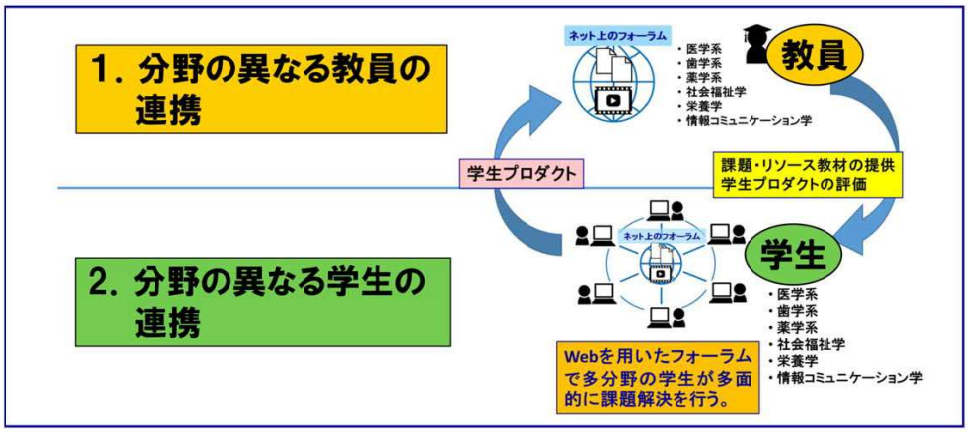
片岡 竜太

分野横断型授業の目標

- チームで多面的に学びを協働し、論理的・批判的な思考力を訓練する。
- 他の専門性を理解することで自分の専門性を客観視できる。
- チーム全体の目標と動きの中で自分の役割と専門性を位置づけることができる（連携力）。
- 他の専門職に対してリスペクト（尊敬）の視点を持つことができる。

参加学生と分野横断型遠隔授業の概要





分野横断型遠隔授業のプラットフォーム

ICT学修支援システム

Google
ドキュメント
スライド

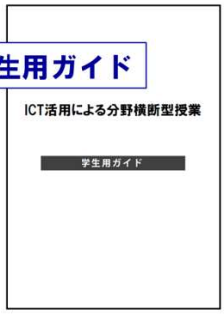
zoom

LINE

同期/非同期
ネット授業

ソフト不要
インターネット
接続があれば
OK

学生用ガイド



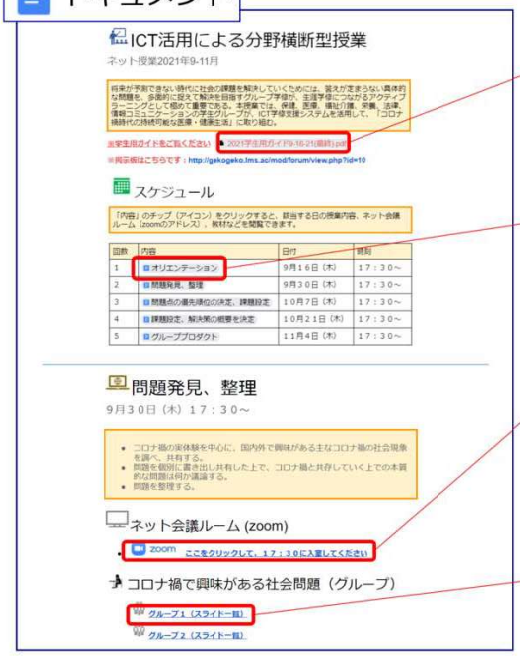
- 学修の進め方
- プロダクト作成方法
- 提出物と提出期限

ICT学修支援システムについて

URLからICT学修支援システムにアクセスできます。（QRコードをクリックしてアクセスすることもできます）

トップ画面

ドキュメント



学生用ガイド
(PDF)

クリックすると、該当する日の授業内容、教材などを閲覧できる。

zoom

途中から、グループ毎に、ブレイクアウトルームに入室していただきます

スライド

LINEオープンチャットの活用

分野横断型授業の概要

分野横断型授業の実施方法

年度	2020	2021	2022
実施時期	6/2～7/14	9/16～11/4	6/1～8/3
テーマ	患者・家族と 地域の課題（事例）	コロナ禍時代の持続可能な医療・健康生活を考える	WITH(ウイズ)コロナ時代の医療・健康生活を考える
参加学生	医療、栄養、社会福祉 1グループ（6名）	医療、栄養、社会福祉、情報コミュ 2グループ（11名）	医療、栄養、社会福祉 情報コミュ 2グループ（14名）
課題の設定と課題解決	多分野グループ	多分野グループ	分野別グループ

分野横断型授業のプロダクト

多分野グループで設定した課題

【2021年度】

問題発見、整理

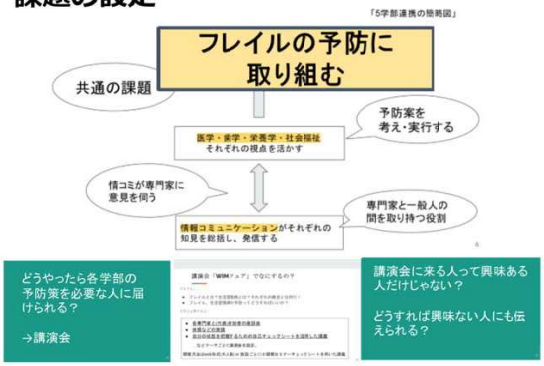
コロナ禍で医療・健康生活を続ける上で重要な「問題」(グループ)

コロナ禍で医療・健康生活を続ける上で重要な「問題」	学修課題
メディア × 心理 「コロナ禍におけるメディアが及ぼす影響」	・国民がどんなワードチョイスに引っかかるのか？ ・注視すべきワードは何か？ （医療者として⇒ex.指手消毒などの感染対策）
食 「コロナ禍における食生活の現状と問題点」	・コロナ禍による生活様式の変化 ・自宅療養者の食事状況について ・ex.フレイル、生活習慣病
雇用・補償 「コロナ禍における雇用・補償の現状」	・失業者関連 ・補償について

コロナ禍で医療・健康生活を続ける上で重要な「問題」	
ワクチンの問題 （ワクチンパス、行政のデジタル化、デマ）	・情報リテラシーの ・デマの根源 ・行政、機関のデジタル化の遅延
コロナ禍での心身の健康管理	・フレイル ・孤食がメンタルに及ぼす影響 ・受診控えの現状、影響

メディア、心理、情報リテラシー、食、雇用など幅広い問題を抽出

課題の設定



①身体機能の低下とメンタルヘルスの悪化 ＋ ②医療に関する情報へのアクセシビリティ

＝ 身体機能の低下とメンタルヘルスの悪化を改善させるためには

専門性を活かした問題解決をするためのグループ課題の決定

多分野グループによる課題解決案

【2021年度】

医学部　医療を身近に

身体機能の低下やメンタルヘルスの悪化は知らず知らずのうちに…

さらに様々な疾患を引き起こしうる。健康障害に対する脆弱性の増加。

予防&早期介入

栄養学部　自分から望んで孤食を選択する仕組みづくり

- 孤食によるメンタルヘルスの悪化
- 孤食によるフレイル（オーラルフレイル）

社会福祉学部　支援方法の使い分け

課題　まずは途切れることなく支援を継続させることが重要

従来行われていた支援実施の難しさ ⇔ 継続した支援を提供すること

対応　支援方法の使い分け・組み合わせを考える

例えばフレイル予防の場

食・ケア会議などで医療職や行政と協働し、高齢者が家にいてもできる体操メニューを作成。広報誌やチラシで住民へ配布。（ワクチン接種会場や医療機関での配布）

連携や協働を通して、コロナ禍であっても継続可能な支援の形を構築する。

歯学部　フレイルの予防

フレイルとは、健康な状態と要介護状態の中間に位置する状態

・文通で認知機能を守る

・人混みを避けて散歩し、歩いた歩数を記録する

社会福祉学部　社会資源の情報把握と情報発信

課題　過度な受診控え　福祉サービス利用控え

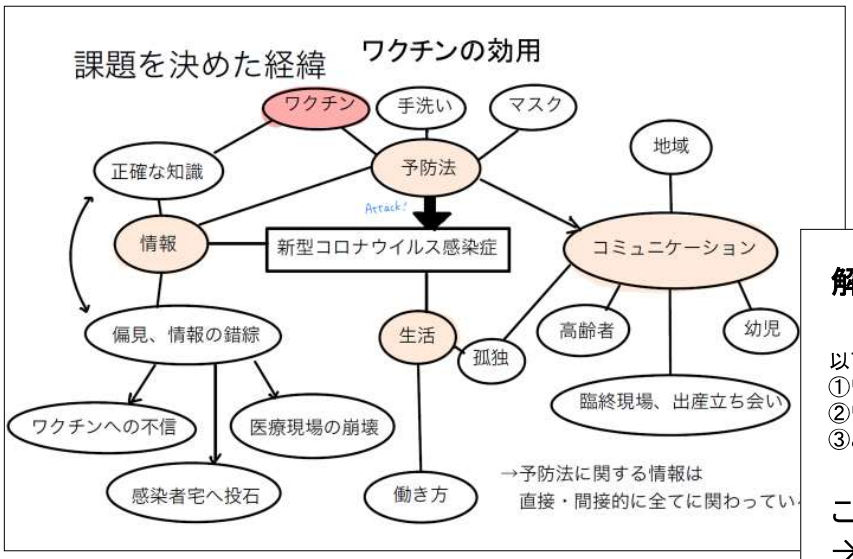
情報コミュニケーション学部　情報格差の是正・情報リテラシーの向上

現状	課題	原因	解決案
・問題の認知不足 ex)フレイルの増加 ・情報格差 ex)外国人 マスク買い占め	・必要な情報が届いていない ・情報リテラシーの欠如	・正しい情報へたどりつけない ・正しい情報の判断ができない ・そもそもデバイスを持っていない	・情報へのアクセシビリティを整える ・情報発信方法の工夫 ・情報リテラシーの教育 ・情報ツール格差の均一化

15

分野別グループが設定した課題と解決策【医学】 【2022年度】

課題



解決策・対応策

以下の事柄を調べ、各現場で情報をきょいう有してもらう。
①ワクチンの生体内での作用
②ワクチンの効能
③どのような理由でワクチンを打てない（打たない）人がいるか

これにより
→正確なワクチンに関する知識をみんなに広め、
→マイノリティを守りつつ、コロナに対抗できる免疫・対応策を持った社会を目指す。

分野別グループが設定した課題と解決策【看護】 【2022年度】

各分野で取り組む課題・解決策②

・**看取り**

本人と家族が納得した死を迎えられるように意思決定支援を行う（最期のとき：自宅/病院/施設）

遺体を透明な袋で包むなど（covid患者）対面で見えるように配慮し、「曖昧な喪失」を防ぐ子供に対しては遊びを通して喪失と折り合いをつけている

＜他分野との連携＞

情報学部と連携してオンラインで最期を看取る

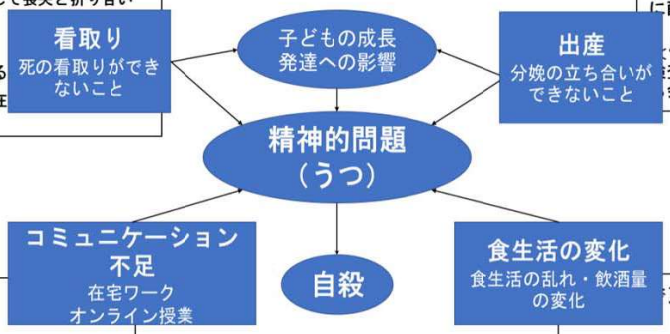
医師と連携して在宅看取りを希望する場合は在宅ように支援する

各分野で取り組む課題・解決策①

・**出産**：
父親が出産に立ち会うことで「父親意識の高まり」や「子供の存在から湧き立つ思い」が上昇したとの研究
一生に一度あるかないかという経験
→抗原検査を行うなど制限を設けてでも立ち合えるように配慮する

＜他分野との連携＞
検査技師に出産を控えた家族のPCR検査を実施して、立ち会えるようにする

問題同士の関連図



各分野で取り組む課題・解決策④

コミュニケーション不足

オンライン授業・在宅ワーク、地域活動の減少などにより、他者と関わる機会が減少しており、孤独を感じやすい環境にある。精神面への影響が大きく、そこからうつ病などにつながる恐れがある。

＜他分野との連携＞

孤立した高齢者を救うために、社会福祉士と連携して独居高齢者の自宅に訪問する。地域活動をオンラインで行う。

情報学部と連携して学生同士の会話の機会を提供する。

取り組む課題・解決策③

・**栄養**
自宅で過ごす時間が増え、食生活の変化が起こる自宅で過ごす時間が増え、ストレスにより飲酒量が増加する

＜他分野との連携＞

オンラインで栄養バランスが良い食事を調べられるようにする

→栄養士のレシピを公開する

情報学部と連携してオンラインで調べられるようにする（クックパッドのようなサイト作成）

分野横断型授業を実施してわかったこと

学生アンケート結果

「とてもそう思う」と回答した学生の割合（%）

■ とてもそう思う　■ ややそう思う　■ あまりそう思わない　■ まったくそう思わない

■ 「とてもそう思う」と回答した学生の割合 第1位

■ 「とてもそう思う」と回答した学生の割合 第2位

アンケート項目	2020 多分野グループで事例を検討	2021 多分野グループでコロナ禍の課題検討	2022 分野別グループでコロナ禍の課題検討
リスペクト	100	100	100
刺激	100	100	89
コミュの重要性の理解	100	89	67
グループプロダクトの達成感	100	89	45
必要な知識や能力の再認識	100	78	67
傾聴、尊重	100	78	78
グループの合意	100	89	78
意欲の高まり	83	67	56
興味の深まり	83	78	67

アンケート項目	2020 多分野グループで事例を検討	2021 多分野グループでコロナ禍の課題検討	2022 分野別グループでコロナ禍の課題検討
理解の深まり	83	78	67
興味深いことについての学修	67	22	45
説明による理解	60	45	44
わかりやすい説明	50	11	11
充実感	67	100	45
支え合い	80	89	45
積極的な質問と相互理解	60	78	67
参加度	40	45	45
十分な準備の必要性	83	67	100

学生アンケート結果（コロナ禍の課題をテーマとした2021,2022年度の比較）

アンケート項目	「とてもそう思う」と回答した学生（%）	
	2021 多分野グループ でコロナ禍の課題を検討	2022 分野別グループ でコロナ禍の課題を検討
他学部生は、自分にない専門的な知識を有していた（リスペクト）。	100	100
他学部生とディスカッションをしたことは、よい刺激だった。	100	89
他学部生と協力してグループプロダクトを作成することができた。	89	45
グループとしての決定は、全員の合意のもとに行われた。	89	78
自分に必要な知識や能力を再認識することができた。	78	67
今回のPBLを通じて、自己学修や他学部生への説明に、十分な準備をする必要性が理解できた。	67	100
興味深いと思ったことについて、さらに学修をしようと心がけた。	22	45

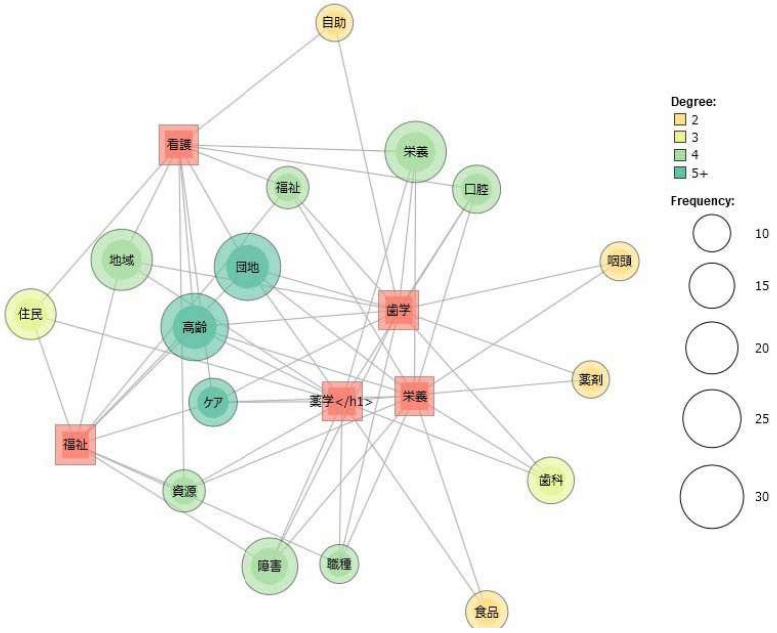
テキストマイニングを用いた「学修レポート（個人）」の解析結果

コロナ禍時代に命や生活を守る
医療、健康増進を実現するために、
各分野で対応すべき課題と対応策、
解決策について

【2020年】

患者・家族と
地域の課題（事例）

ほとんどの語句が共通して用いられており、
各専門性を活かした解決策が提案されている

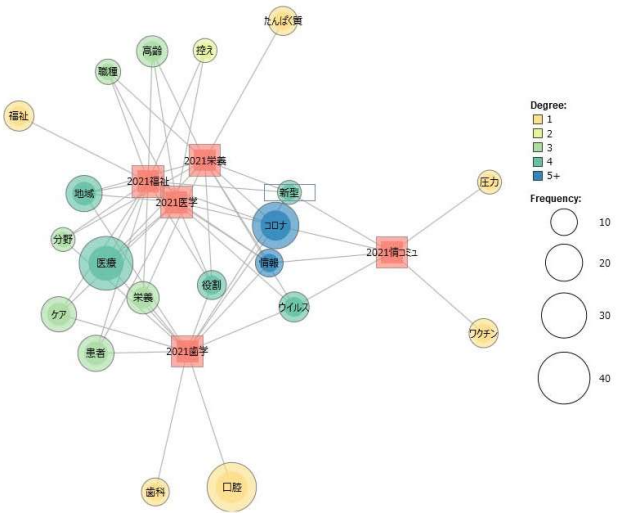


テキストマイニングを用いた「学修レポート（個人）」の解析結果

コロナ禍時代に命や生活を守る
医療、健康増進を実現するために、各分野で対応すべき課題と対応策、解決策について

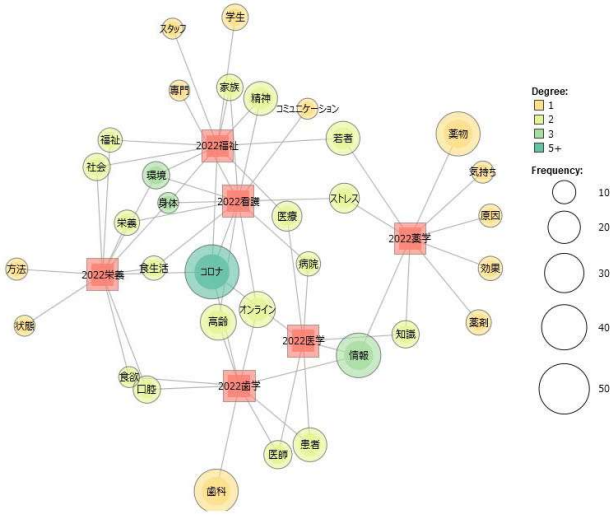
多分野グループ【2021年】

共通して用いられている語句が多く、専門性を活かした連携が意識されている



分野別グループ【2022年】

分野独自で用いられている語句が多い



ICTを活用した分野横断型授業の成果

- 問題解決のプロセスに沿って、**論理的・批判的思考力の訓練**ができた。
- 他分野の学生から**刺激をうけ**、**幅広い視野**で、医療・健康生活を考えることができた。
- 自職種についての**アイデンティティを深め**、また**他職種の役割を知り尊重する**ことができた。

通常の大学の授業では経験できない体験

- 専門性を活かして、**多職種と連携**する力を身に付けるためには、**多分野グループで課題を設定し、問題解決**を行う方法が適していると考えられた。

謝 辞

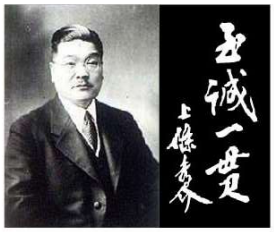
以下の先生方の協力と指導をいただきました。

東邦大学 医学部	廣井　直樹　教授
大阪歯科大学 歯学部	神原　正樹　名誉教授
北海道医療大学 薬学部	二瓶　裕之　教授
昭和大学 薬学部	山元　俊憲　名誉教授
北里大学 看護学部	中山　栄純　准教授
日本社会事業大学 社会福祉学部	小原　眞知子 教授
神奈川工科大学 健康医療科学部	原島　恵美子 准教授
明治大学 情報コミュニケーション学部	川島　高峰　准教授
神奈川大学 法学部	中村　壽宏　教授

SHOWA University

医学部　歯学部　薬学部　保健医療学部

ご清聴ありがとうございました

国民の健康に親身になって尽せる臨床医家を養成する

昭和大学